

カタクチイワシ瀬戸内海系群の 資源管理について

【参考資料編】

令和7年10月22日(水)
令和7管理年度TAC変更に関する意見交換会
水産庁

目次

【参考１】年間漁獲量の実態把握調査結果	１
【参考２】ＴＡＣ報告（月報）の概要について	２
【参考３】カタクチイワシ漁業の実態調査の概要について	４
【参考４】カタクチイワシ漁獲シェア表	５
【参考５】シラス漁業の実態調査の概要について	６
【参考６】シラスの漁獲量の正確な把握について	８
【参考７】カタクチイワシ（卵稚仔・シラスを含む）の生態について	９

【参考1】年間漁獲量の実態把握調査結果（第3回SH会合の資料3のP14の抜粋）

- 第2回SH会合等において、本系群については、漁獲量の未報告があることや加工品の原魚換算方法が実態と乖離している可能性があるとの指摘があったことから、改めて関係府県に対し農林統計の自府県の漁獲量の数値と比較した府県独自に把握している漁獲量の調査を依頼。これまでの関係府県からの情報提供の内容は以下のとおり。

広島県：（現時点において）農林統計の漁獲量を採用【今後、未把握の漁獲量の集計方法を検討中】

大阪府：（府において把握している数量と農林統計の漁獲量が一致していることから）農林統計の漁獲量を採用

香川県：県において把握している漁獲量を採用

愛媛県：県において把握している漁獲量を採用【令和2年分は把握していないため、農林統計の漁獲量の数値】

兵庫県：（現時点において）農林統計の漁獲量を採用【今後、生き餌販売用の漁獲量の把握方法を検討中】

山口県：県において把握している漁獲量を採用

徳島県：県において把握している漁獲量を採用【令和2年分は一部把握出来ないため、農林統計の漁獲量を採用】

大分県：県において把握している漁獲量を採用

和歌山県：県において把握している漁獲量と差がないことから、農林統計の漁獲量を採用

岡山県：県において把握している漁獲量と差がないことから、農林統計の漁獲量を採用

福岡県：県において把握している漁獲量と差がないことから、農林統計の漁獲量を採用

【参考2】TAC報告(月報)の概要について(その1)

- カタクチイワシ瀬戸内海系群独自のTAC報告(月報)の様式を定めて、5月より水産庁・関係府県間において共有する運用を開始。
- TAC報告(月報)の10月分(8月分までのTAC報告)の概要については、次のとおり。

●TAC報告(府県別月別)の取りまとめ表【8月分まで】

県 名	月別(単位:t)								R7(単位:t)	管理参考数量(t) (漁獲可能量)	消化率
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月			
和歌山県	0	0	0	0	1	0	0	0	1	10	7%
大阪府	23	198	26	1	501	0	224	192	1,166	9,101	13%
兵庫県	0	0	0	0	0	0	1,320	0	1,320	3,821	35%
岡山県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
広島県	1,049	557	0	0	0	901	2,141	1,240	5,888	15,278	39%
山口県	1	2	4	3	3	544	758	695	2,011	3,605	56%
徳島県	0	0	0	387	0	0	0	0	387	1,368	28%
香川県	0	0	0	0	0	127	1,631	2,566	4,324	7,219	60%
愛媛県	106	0	10	11	8	137	769	637	1,677	6,379	26%
福岡県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
大分県	12	14	5	51	0	7	222	260	573	1,224	47%
累 計	1,191	771	45	453	513	1,716	7,065	5,590	17,346	48,000	36%

※ 小数点以下は四捨五入

【参考2】TAC報告(月報)の概要について(その2)

●TAC報告(府県別月別海域別)の取りまとめ表【8月分まで】

単位:t

	紀伊水道	大阪湾	播磨灘	備讃瀬戸	燧灘	安芸灘	伊予灘	周防灘	合計
関係11府県の合計 (令和7年8月まで)	388	1,166	1,320	0	2,323	5,949	787	14	11,948

単位:t

灘・湾	紀伊水道		大阪湾		播磨灘				備讃瀬戸	
府県	和歌山	徳島	大阪	兵庫	兵庫	岡山	徳島	香川	岡山	香川
小計	1	387	1,166	0	1,320	0	0	0	0	0
1月	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	198	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0
4月	0	387	1	0	0	0	0	0	0	0
5月	1	0	501	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	224	0	1,320	0	0	0	0	0
8月			192							

単位:t

灘・湾	燧灘			安芸灘			伊予灘			周防灘		
府県	広島	香川	愛媛	広島	山口	愛媛	広島	愛媛	大分	山口	福岡	大分
小計	0	1,758	565	4,647	1,302	0	0	475	312	14	0	0
1月	0	0	0	1,049	0	0	0	106	12	1	0	0
2月	0	0	0	557	0	0	0	0	14	2	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	10	5	4	0	0
4月	0	0	0	0	0	0	0	11	51	3	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	8	0	3	0	0
6月	0	127	134	901	544	0	0	3	7	0	0	0
7月	0	1,631	432	2,141	758	0	0	337	222	0	0	0
8月											0	

※ 小数点以下は四捨五入

【参考3】カタクチイワシ漁業の実態調査の概要について

令和5年7月、カタクチイワシ瀬戸内海系群のTAC管理に向けて、現状のカタクチイワシ漁業の実態（漁獲している漁業種類、許可期間、漁期（盛漁期）、操業海域、経営体数、隻数など）を調査・整理した。その取りまとめ結果は以下のとおり。

【関係者限り】

府県別カタクチイワシ漁業の実態調査の概要

府県名	漁業種類	許可期間	漁期 (盛漁期)	操業海域 (瀬名など)	経営体 (漁業者)数	隻数	漁獲量の把握状況 (電子化・紙など)
大阪府	中型まき網漁業	周年	漁期:周年 (盛漁期:6月～10月)	大阪府地先海面	5	10	電子データによる報告
兵庫県	中型巻き網	周年	周年	播磨灘	4	10	電子化 未 (農林統計2021年) 県計瀬戸内海計 2,826トン うち、中・小型巻き網 2,826トン
広島県	瀬戸内海機船船びき網漁業 機船船びき網漁業 小型まき網漁業	・1月1日～12月31日	3月 6月～12月	安芸地区 備後地区	78	123	紙(漁獲成績報告書)による報告
山口県	瀬戸内海機船船びき網漁業 いわし船びき網漁業	4/1-3/31	初夏～晩秋	広島湾 伊予灘 周防灘	16	32	紙
徳島県	機船船びき網漁業	周年	1月～12月	紀伊水道	44	88	紙(漁獲成績報告書)による報告 電子データによる報告
香川県	瀬戸内海機船船びき網漁業 動力付いわし地びき網漁業	5月1日～翌年1月15日	6月～10月	燧灘 播磨灘	17	34	共販結果の報告 紙(漁獲成績報告書)による報告
愛媛県	瀬戸内海いわし機船船びき網漁業 いわし機船船びき網漁業	周年	5月～9月	燧灘 伊予灘	12	32	電子データによる報告 紙(漁獲成績報告書)を電子データに変換し報告
大分県	瀬戸内海機船船びき網漁業 機船船びき網漁業	周年	周年	別府湾	12	28	・漁業法第52条の規定に基づく資源管理状況等の報告(電子データ) ・漁協共販実績(電子データ)
合計					188	357	

【参考4】 2. 課題への対応の方向

(2) 資源管理関係(4/7) (第3回SH会合の資料3のP17の抜粋)

④ 年により漁獲量に変動がある県があるため、漁獲シェアについては、3年よりも長い期間での平均をとることを検討する必要がある。



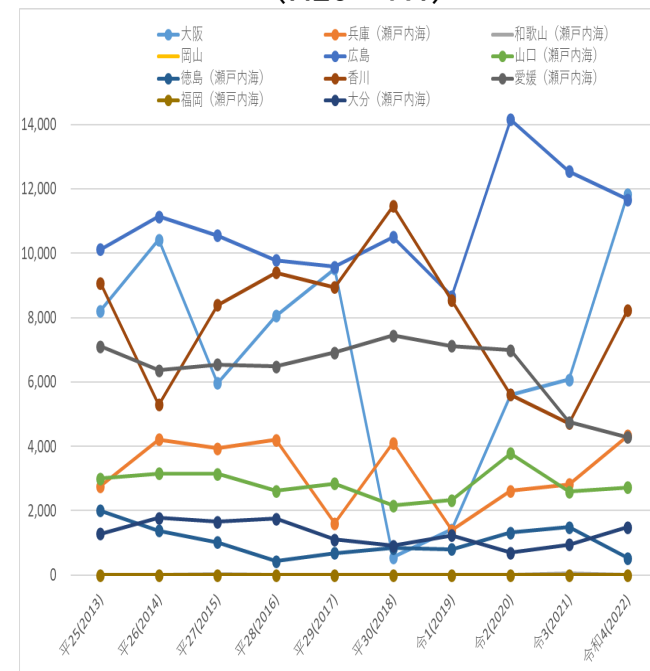
府県により漁獲実態が異なることは認識しており、公平性の観点から、漁獲シェアを算出する際の期間についての検討は必要と考えています。本件については、今後、ステップ3に入り具体的な配分を行う前までに、留保からの配分や融通等の運用と併せて、関係者間で議論して決定していきます。

＜参考：漁獲シェア表＞ ※灰色のセルは80%を構成する上位府県

	3か年平均					5か年平均		
	H28-H30	H29-R1	H30-R2	R1-R3	R2-R4	H28-R2	H29-R3	H30-R4
大臣管理分合計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
知事管理分合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
大阪	14.5%	9.7%	6.9%	11.7%	19.3%	12.9%	11.9%	12.6%
兵庫(瀬戸内海)	8.2%	6.4%	7.4%	6.2%	8.0%	7.2%	6.7%	7.8%
和歌山(瀬戸内海)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
岡山	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
広島	24.6%	26.1%	30.2%	32.4%	31.5%	27.1%	29.6%	30.1%
山口(瀬戸内海)	6.2%	6.7%	7.5%	8.0%	7.5%	7.1%	7.3%	7.1%
徳島(瀬戸内海)	1.6%	2.1%	2.7%	3.3%	2.7%	2.1%	2.8%	2.7%
香川	24.6%	26.3%	23.2%	18.0%	15.2%	22.6%	21.2%	20.5%
愛媛(瀬戸内海)	17.2%	19.7%	19.5%	17.7%	13.2%	18.0%	17.9%	16.4%
福岡(瀬戸内海)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
大分(瀬戸内海)	3.1%	3.0%	2.6%	2.8%	2.6%	2.9%	2.7%	2.8%

※水産庁が現時点で入手したデータに基づいて暫定的に計算したものであり、今後のデータ入手や、計算の見直しによってシェアが変更となる可能性があります。

＜参考：府県別漁獲量の推移＞
(H25～R4)



出典：海面漁業生産統計調査(農林水産省)

【参考5】シラス漁業の実態調査の概要について(その1)

「漁獲努力量を増加させない」の具体的な基準を検討するため、シラス漁業の実態の調査・整理を進めたところ、結果は以下のとおり。

【関係者限り】

府県別シラス漁業の実態調査の概要

(基準年月:令和7年1月)

①府県名	③漁業種類	④許可期間	⑤許可ベース・実稼働ベースの別	⑥漁期(盛漁期)	⑦操業海域(灘名など)	⑧経営体(漁業者)数	⑨統数	⑩(左記の内カタクチも漁獲する数)	⑪隻数	⑫操業日数	⑬漁獲量の把握状況(電子化・紙など)	⑭備考
和歌山県	瀬戸内海機船船びき網漁業	周年	許可ベース	1～12月(4月～6月)	許可海域(瀬戸内海)	50	50	(50)	100	—	電子データ+紙(漁獲成績報告書)による報告	
			実稼働ベース	1～12月(4月～6月)	許可海域(瀬戸内海)	50	50	(50)	100			
大阪府	瀬戸内海機船船びき網漁業	1月11日～12月25日までただし、2月1日～2月21日までは操業することができない	許可ベース	5月～10月	大阪湾東部海域	84	67	(5)	134	1133	電子データによる報告	
			実稼働ベース	5月～10月	大阪湾東部海域	84	67	(5)	134			
兵庫県	瀬戸内海機船船びき網漁業 機船船びき網漁業	周年	許可ベース	5月～12月	播磨灘 紀伊水道	734	278	(0)	555	—	電子データによる報告 紙(漁獲成績報告書)による報告	
			実稼働ベース	5月～12月	播磨灘 紀伊水道	734	278	(0)	555			
岡山県	機船船びき網漁業 餌料いわし袋待網漁業	5月16日～7月31日まで 9月1日～11月15日まで	許可ベース	6月～7月 9月～11月	播磨灘 備讃瀬戸	14	14	(0)	17	43	電子データによる報告 紙(漁獲成績報告書)を電子データに変換し報告	
			実稼働ベース	6月～7月 9月～11月	播磨灘 備讃瀬戸	5	5	(0)	8			
広島県	瀬戸内海機船船びき網漁業 機船船びき網漁業	6月10日～翌年2月末日	許可ベース	6月～12月	安芸地区 備後地区	41	41	(26)	82	—	紙(漁獲成績報告書)による報告 R6年度漁獲からアプリ使用	
			実稼働ベース	6月～12月	安芸地区 備後地区	39	39	(26)	78			
山口県	瀬戸内海機船船びき網漁業	周年	許可ベース	6月～8月	安芸灘	10	10	(10)	20	—	紙による報告	
			実稼働ベース	6月～8月	安芸灘	10	10	(10)	20			

【参考5】シラス漁業の実態調査の概要について(その2)

【関係者限り】

府県別シラス漁業の実態調査の概要

(基準年月:令和7年1月)

①府県名	③漁業種類	④許可期間	⑤許可ベース・実稼働ベースの別	⑥漁期(盛漁期)	⑦操業海域(瀬名など)	⑧経営体(漁業者)数	⑨親数	⑩(左記の内力タケすも漁獲する数)	⑪隻数	⑫操業日数	⑬漁獲量の把握状況(電子化・紙など)	⑭備考
徳島県	機船船びき網漁業	周年	許可ベース	1月～12月	紀伊水道	42	42	(0)	84	—	電子データによる報告 紙(漁獲成績報告書)による報告	
			実稼働ベース	1月～12月	紀伊水道	42	42	(0)	84			
香川県	船びき網漁業 込網漁業 地びき網漁業 瀬戸内海機船船びき網漁業	1月～12月	許可ベース	1月～12月	備讃瀬戸 播磨灘 燧灘	75	75	(75)	99	2,004	漁獲成績報告(紙、電子) 共販データ(電子) ほか、水試による日誌調査	
			実稼働ベース	1月～12月	備讃瀬戸 播磨灘 燧灘	74	74	(74)	98			
愛媛県	瀬戸内海機船船びき網漁業 いわし機船船びき網漁業 いかなご袋待網漁業	周年	許可ベース	5月～翌3月	燧灘 伊予灘	44	48	(20)	89	—	紙(漁獲成績報告書)を電子データに変換し報告	
			実稼働ベース	5月～翌3月	燧灘 伊予灘	13	15	(4)	22			
福岡県	—	—	許可ベース	—	—	0	0	(0)	0	—	—	
			実稼働ベース	—	—	0	0	(0)	0			
大分県	瀬戸内海機船船びき網漁業 機船船びき網漁業	周年(一部区域については11月15日～2月末または12月16日～2月15日)	許可ベース	周年(④と同じ)	別府湾	12	14	(14)	28	—	漁協共販実績(電子データ)	
			実稼働ベース	周年(④と同じ)	別府湾	12	14	(14)	28			
合計			許可ベース			1106	639	(200)	1208	—		
			実稼働ベース			1063	594	(183)	1127			

※1 項目⑥～⑪については、基本的に令和7年1月現在の内容・数値を記載。基準年月が異なる場合には、その旨を記載。

許可ベースは、実際に府県が発給している漁業許可の内容・数値を記載。実稼働ベースは、実際に府県が発給している漁業許可に基づきシラス操業を行っている経営体及び漁船の内容・数値を記載。

※2 ⑫については、可能な範囲で令和6年の1年間の操業日数を記載。

※3 把握していない項目等については、備考欄にその理由や考え方、今後の対応方針等を記載。

(例:〇年〇月に更新予定、〇年〇月から調査・把握していく予定、〇〇の理由により把握することができない、等)

【参考6】シラスの漁獲量の正確な把握について

これまでの行政間意見交換会において「シラスの漁獲量を把握していくべき」という意見があったことから、シラスの漁獲量の正確な把握を進めることの是非について検討することとし、まずは関係府県に対し、調査の目的と様式(府県別・年別・月別・海域別)を示して調査を実施し、その回答を取りまとめた。

【漁獲量の調査を行う目的】

- ①「シラスを漁獲する漁獲努力量を増加させないよう努める」の基準を検討する一環として、水産庁がシラス漁業の操業実態の数値だけでなく、漁獲量の推移についても一つの指標としてしっかりと確認すること。
- ②農林統計の各府県のシラスの漁獲量の数値と府県独自の調査によるシラス漁獲量の数値に乖離がないか確認すること。
- ③卵稚仔調査、シラス漁況予報及びカタクチイワシの資源評価の改善を図るための科学的なシラスの漁獲データを水産機構等の研究調査機関に提供すること。

目的は上記①～③のとおりであり、決してシラスの漁獲量管理を求めるものでも、実施するものではない。

【調査の様式】

●府県別年別のシラス漁獲量(令和4年(2022年)～令和7年(2025年)・全海区、(瀬戸内海海区))

単位: 100t													(瀬戸内海海区)
	和歌山県	大阪府	兵庫県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	福岡県	大分県	合計 (全海区)	
令和4年	18	32	124	6	13	1	25	8	27	-	12	265	255
令和5年	16	53	159	10	14	1	29	6	19	-	22	328	318
令和6年	18	28	117	4	12	0	24	2	32	-	17	254	244
令和7年												0	

※令和4年から令和6年の漁獲量は、漁業・養殖業生産統計(農林水産省)の数値を用いた。令和7年の漁獲量は、漁業・養殖業生産統計(農林水産省)の数値(上段)と関係府県の独自の調査による数値(下段・青字)を併記した。

●令和7年(2025年)府県別月別海域別シラス漁獲量の累計表

※可能な範囲内で月別海域別の漁獲量をご記載ください。

単位: t									
関係11府県の合計 (令和7年5月まで)	紀伊水道	大阪湾	瀬内湾	備後瀬戸	瀬内	安芸瀬	伊予瀬	周防瀬	合計
	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

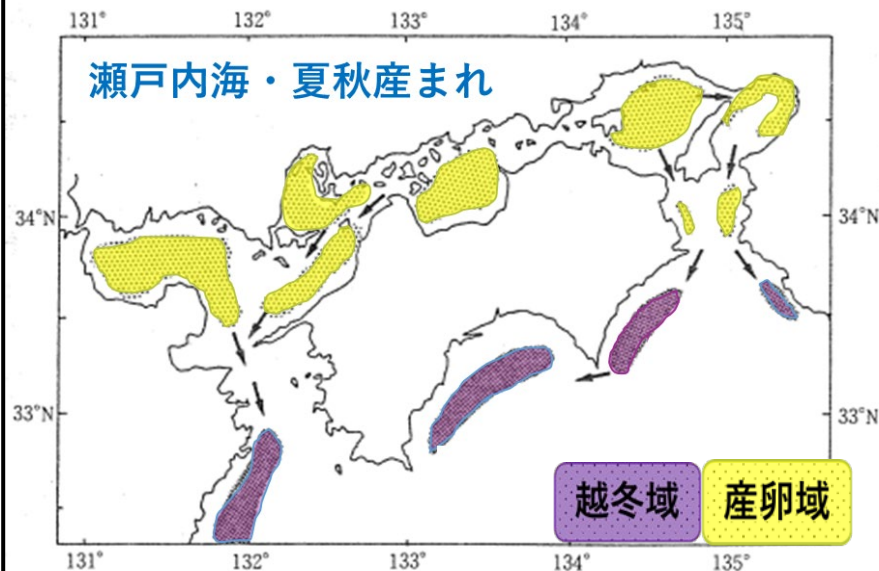
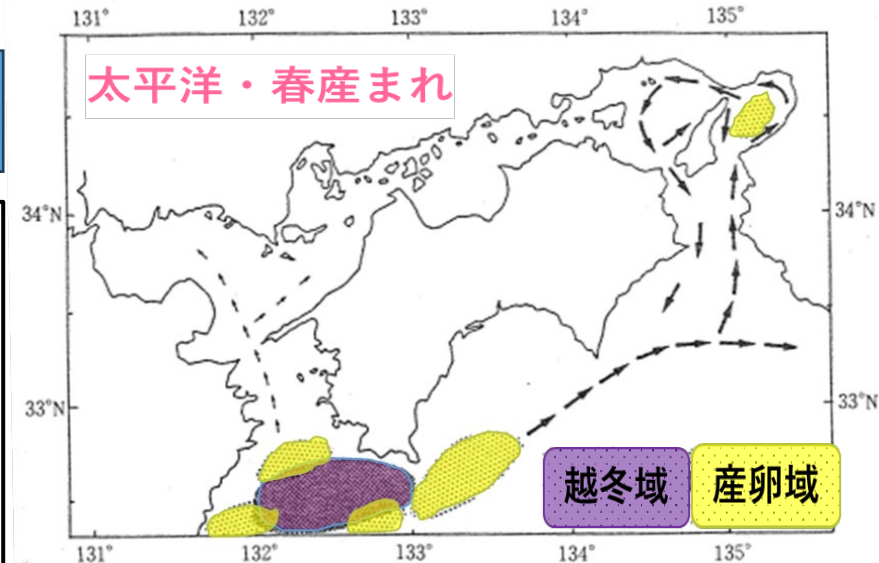
単位: t									
府県	和歌山	徳島	大阪	兵庫	岡山	徳島	香川	岡山	香川
小計	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
1月									
2月									
3月									
4月									
5月									
6月									
7月									
8月									
9月									
10月									
11月									
12月									

単位: t												
府県	広島	香川	愛媛	広島	山口	愛媛	広島	愛媛	大分	山口	福岡	大分
小計	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
1月												
2月												
3月												
4月												
5月												
6月												
7月												
8月												
9月												
10月												
11月												
12月												

【参考7】カタクチイワシ(卵稚仔・シラスを含む)の生態について(その1)

1. 分布・回遊・成熟・産卵

- カタクチイワシ瀬戸内海系群は、大別すると瀬戸内海で生まれる「**瀬戸内海・夏秋産まれ群**」と、薩南海域から紀伊水道外域で生まれて黒潮により瀬戸内海に毎年供給される「**太平洋・春産まれ群**」の、産卵場が異なる2つの発生群から形成されている。
- 瀬戸内海での主産卵期は5～9月。1歳までに全個体が成熟し、寿命は2年程度。
- 産卵からふ化まで2～3日、シラスは2月齢程度までとされている(3月齢からはカエリ扱い)。
- 産卵からシラスまでの約2カ月間は、瀬戸内海の流れに乗って浮遊しながら拡散し、鱗が形成されて銀化した遊泳力のあるカエリ以上のカタクチイワシは、瀬戸内海の湾灘間を回遊し、成熟すると複数回産卵する。
- 2つの発生群ともに秋～冬季には、太平洋側に越冬回遊又は輸送される。「**瀬戸内海・夏秋産まれ群**」は、翌年の春季には大羽又は中羽群として、再び瀬戸内海に來遊し、複数回産卵する。ただし、これらのうち、瀬戸内海で越冬する個体もいる。
- しかしながら、2つの発生群は明確に区別されるものではなく、発生海域やその後の分布は時空間的に連続的であるため、瀬戸内海で混じり合いながら産卵がなされていることが想定される。



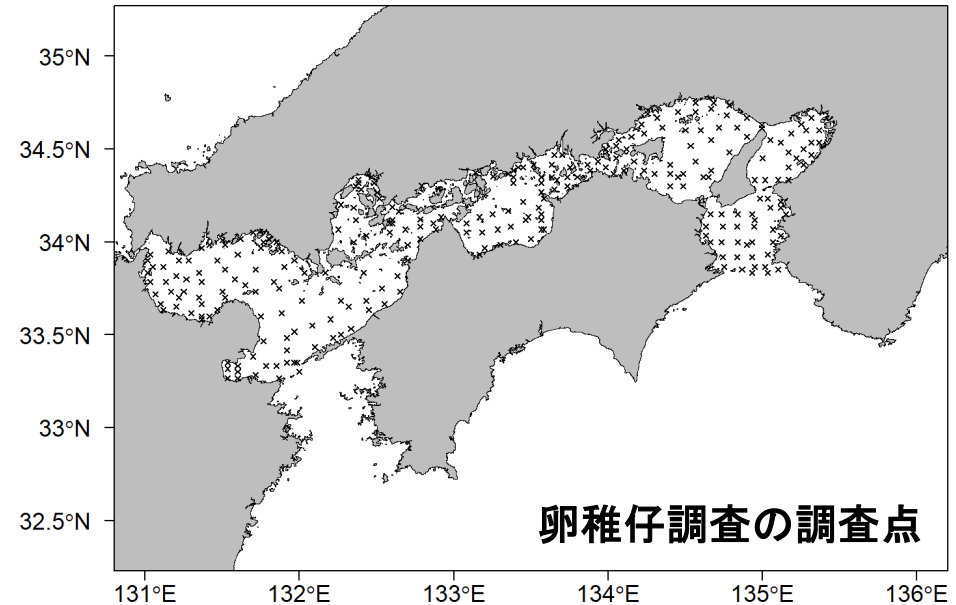
高尾亀次(1990)瀬戸内海における
カタクチイワシの回遊・産卵。
水産技術と経営, 3, 9-17.

【参考7】カタクチイワシ(卵稚仔・シラスを含む)の生態について(その2)

2. 卵稚仔調査について

【方法】

- ・期間: ほぼ周年
- ・頻度: 月1回
- ・調査点: 瀬戸内海全域に配置(右上図)
- ・実施府県: 和歌山県、大阪府、兵庫県、
岡山県、広島県、山口県、
福岡県、大分県、徳島県、
香川県、愛媛県
- ・プランクトンネットの鉛直曳網: 右下図
- ・曳網回数(1980～2024年)
: 合計111,011回
平均2,467回／年
(1,940～2,909回／年)



【参考7】カタクチイワシ(卵稚仔・シラスを含む)の生態について(その3)

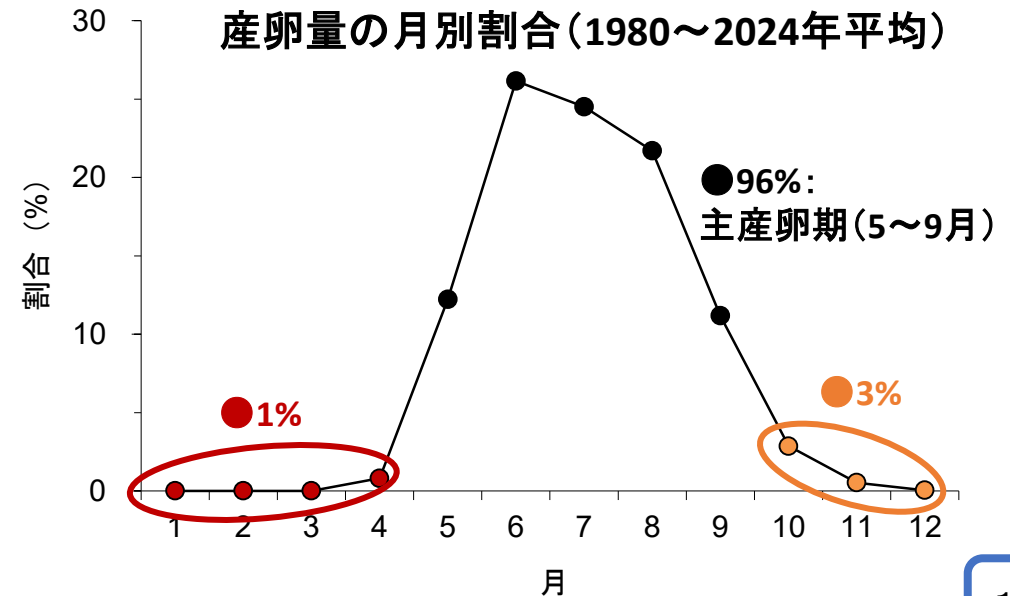
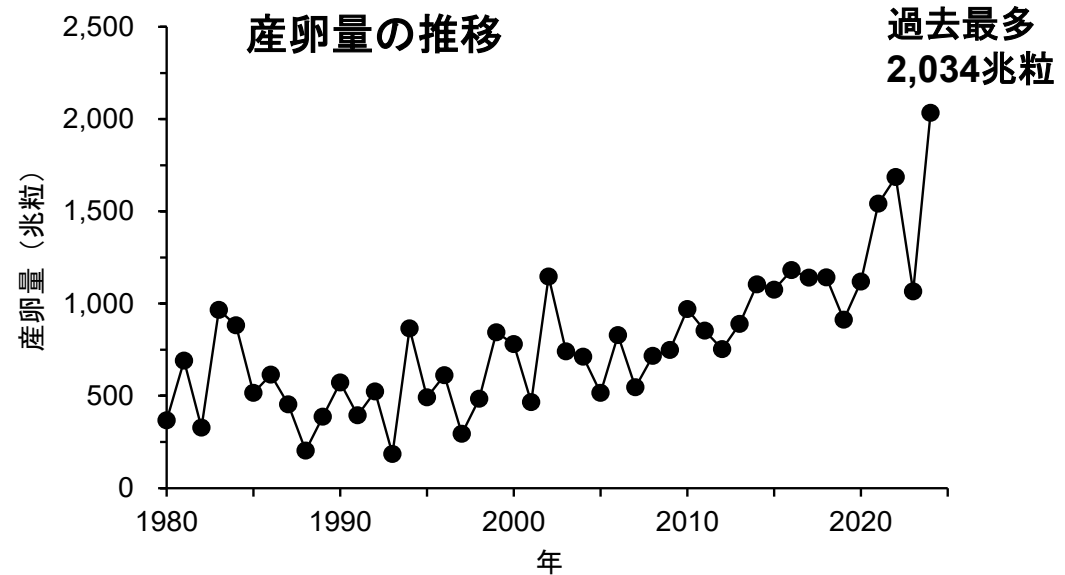
3. 産卵量の推移及び産卵量の月別割合

【産卵量の推移】

・瀬戸内海における産卵量は、185兆～2,034兆粒(平均785兆粒)で推移している。年ごとの変動は激しいが、1990年代後半以降は増加傾向にあり、2024年は2,034兆粒であった。

【産卵量の月別割合】

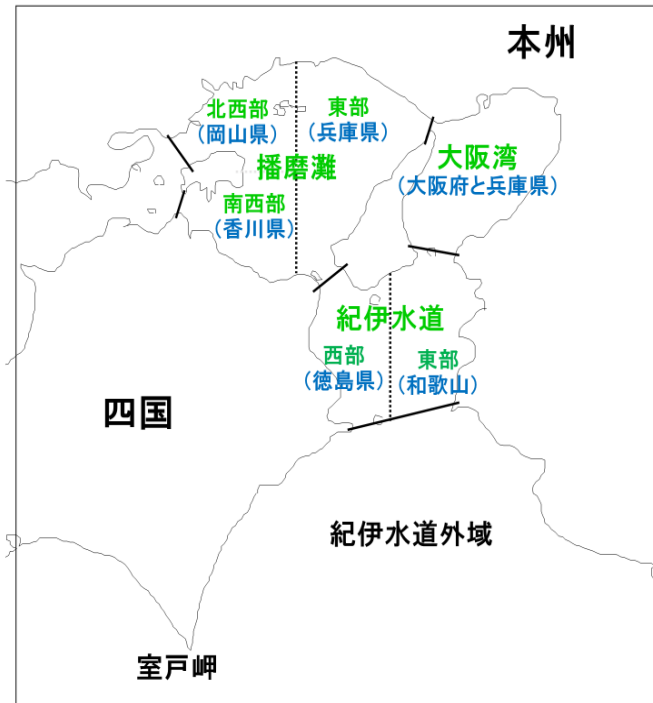
・瀬戸内海における産卵量の月別割合については、主産卵期である5～9月が96%を占めている。



【参考7】カタクチイワシ(卵稚仔・シラスを含む)の生態について(その4)

4. カタクチイワシ漁況予報

●瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報



期間

春季：5～6月

夏季：7～8月

対象海域

瀬戸内海東部

対象

カタクチイワシシラス

カタクチイワシ

(大阪湾の夏季のみ)

●カタクチイワシ卵仔魚の流れと漁場形成：5～6月

